

## 畜産農家の一日

schedule



○取材日：2月15日

○取材先

糸繰慎也さん(38歳)

3年前(平成26年)に鹿児島市から移住。

妻(小春さん)と3人の子どもの5人家族に加えて、しおかぜ留学生を2人(小学校6年生と中学校3年生)受け入れている。

畜産は2年前から開始し、取材時には母牛と子牛を合わせて8頭を飼育。



AM 8:00

### 朝の牛舎作業



#### ○牛舎清掃

牛舎の清掃は丁寧にを行う。清掃をしっかりとしておくことで牛の健康維持にもなるし、発情期にあらわれる動き回るなどの兆候を見つけやすくなるため。

#### ○餌やり

配合飼料と乾燥牧草を組み合わせる。牛の成長具合を見極めながら、分量と組み合わせを変えている。

#### ○ブラッシング

牛の毛並みを整えると同時に、牛とのコミュニケーション手段でもある。出産予定日を迎えた母牛に「頑張ってるね」と声をかけながらブラッシングする。



AM 10:00

### 青草刈り



飼料は、本土から購入するだけでなく、地元の草地から刈った青草も使用する。朝の牛舎作業が終わったら、集落近くの草地に向かい、青草を刈る。



AM 11:00

### 青草を牛舎へ



刈り取った青草を牛舎に搬入。ついでに、一部を牛に与える。これでいったん午前の作業は終了。

現在受け入れている2人のしおかぜ留学生(小6・中3)は、いずれも今年度いっぱい学校を卒業して島を離れ、代わりに、新年度からは新たに3人の子どもを迎え入れる。この日到着したフェリーで、そのうちの1人が母と一緒に下見にやってきた。島での生活について丁寧に説明し、打ち合わせる。



PM 6:30

### 新年度からのしおかぜ留学生との面談



おつかれさま!!



母牛にとっては初めての出産。「よく頑張ったね」とねぎらいの言葉を何度もかけながら丁寧にブラッシング。



牛の餌やりには、子どもも手伝う。

HAPPY BIRTHDAY!!



PM 5:00

### 子牛が産まれた!



そろそろ夕方の牛舎作業に向かおうとしたところへ、子牛が産まれたとの一報が入り、家族総出で駆けつける。牛舎に着いてみると、朝方「頑張ってるね」と声をかけながらブラッシングしていたあの母牛が、元気な子牛を産んでいた。



PM 3:30

### フェリーみしまが片泊港に入出港



糸繰さんは、フェリーみしまが片泊港に入出港する際の荷役作業も担っている。フェリーから発射された係留ロープを引っ張って岸壁を走り、係船柱(ピット)に繋ぎ留める。フェリーからコンテナが降ろされたら、コンテナ内の荷物の搬出作業を行う。